

# 3学期の活動報告 4歳児



作戦を立てています



1月 雪遊び



雪遊びでは、作戦を立てて対担任と雪合戦を楽しんでいます。攻める方法をみんなで考えていくことで、仲間意識も膨らんでいきます。

まず、みんなで雪の玉をたくさん作って、一度に攻めるための準備をすることにしました。

担任も負けてはいません。互いに真剣なので、楽しさが増していきます。

また、年長児の氷遊びに憧れを感じ、“僕たちも氷を作りたい”と年長児に弟子入りをして教えてもらいました。大成功。年長児への尊敬の念が膨らんでいきます。こうして、遊びが受け継がれていくのだと思います。

氷や雪が解けないように、年中児も考えます。日が当たらないように、新聞紙で暗くしています。考えたことをやってみる、探究心が続いていきます。



教え合ったり、競い合ったりしています



製作遊び



今までは、先生と一緒に遊ぶことを好んでいた子どもたちも、カードゲーム、パズル、正月遊び等、自分たちで遊びを進めていく姿が多く見られるようになってきました。

友達にヒントを教えたり、自分もたくさんカードを取りたいと意欲を膨らませたり、友達と刺激し合ったり、力を合わせたりする姿が見られます。

また、遊びや場面によって友達との関係性は逆転することもあります。多様な関係性があることで、味方、考え方も広がっていくと考えます。

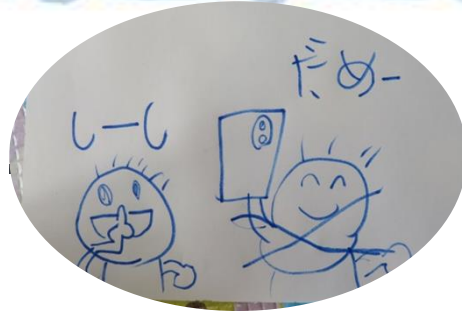


# 集団遊び 挑戦する遊び



年中児の後半には、大勢で集まりルールのある遊びを楽しむ姿が多く見られるようになります。転がしドッジボールや、色鬼、だるまさんが転んだ等、みんなで遊ぶことの面白さを味わいます。この時期は、ルールを共有することが難しい場合もあるため、気持ちのぶつかり合いが多くありますが、それが学びのチャンスです。大人の介入を必要としますが、自分の思いを、言葉にして受け止めてもらうことで、相手の言い分に耳を傾けるようになっていきます。我慢しなければいけなくて、嫌な気持ちになることもありますが、それでも、一緒に遊びたい気持ちが勝り、折り合いをつけるようになります。

竹馬や縄跳び等、複数の動きを同時に行う必要がある遊びにも挑戦するようになります。個人差は大きいですが、“やってみたい”“できるようにになりたい”という意欲があることで、挑戦する気持ちが膨らんでいきます。



映画ごっこ



自分たちで  
創る遊び



2学期頃から、猫になって遊びことを好んでいた子どもたちです。教師が黒い布など舞台を用意すると、さっそく「映画館にしよ。」、「チケットがいるよね。」と考えたことを話したり、用意したりしていました。

券を作って配ったり、椅子を並べたり、映画を見ながら食べるお菓子を用意したりしました。自分たちで考えて遊びを創ろうとしています。

映画が始まる前には、「よーい、アクション」なんて話す子もいる程、映画という共通のイメージの中で、子どもたちが考えています。

担任は、共感しながら、楽しくなるように、環境を考えました。カーテンを付けたり、猫になりきる道具などを考えたりしました。





劇に使うものの製作

猫がたくさん出てくる、絵本『11ぴきのねこ』のお話で劇ごっこをすることにしました。

「美味しい魚がいるよね。」ということで、魚作りの始まりです。大きな段ボールを切ったり、絵の具で塗ったり、ウロコを貼ったりしました。

子どもたちのイメージに合うように、布、毛糸、不織布、段ボールなど、様々な素材を用意しました。

劇に必要な物を製作する中で、イメージが共有され、更に表現遊びが楽しくなります。

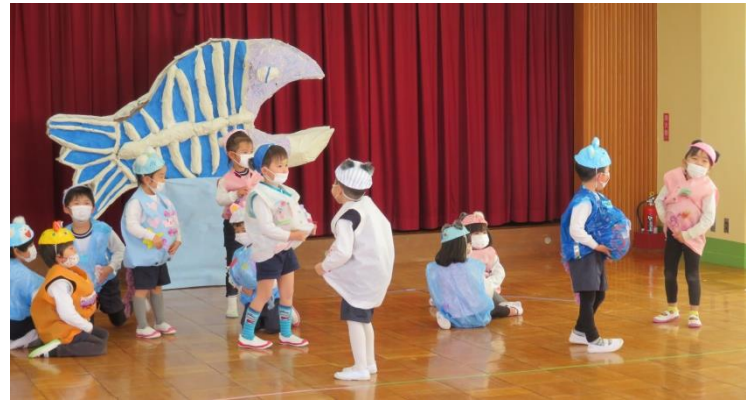


# 表現遊び

劇ごっこが更に楽しくなるように、担任は、日頃、子どもたちが楽しんでいる“だるまさんが転んだ”の遊びを取り入れることを提案してみました。

「先生、いいこと考えるね。」と子どもに褒められ、担任も子どもと一緒に創り上げている過程が楽しくなってきました。

「先生、僕もいい事考えた。」と子どももひらめき、アイデアが出てきます。



楽しみ会

楽しみ会の当日、嬉しい気持ちとドキドキする気持ちとが入り混じりながらも、「楽しくやろうね。」と担任が子どもたちに呼びかけました。

子ども同士で、「次は、こっちだよ。」、「ここの順番だよ。」と小さな声で教えてあげる姿がありました。

遊びの中でいろいろな役をやってきたので、どの子もストーリーが頭に入っていることが伺えます。

みんなが進めていきながら、自分たちの遊びの一部の劇ごっこになっているのです。